

令和7年度未来を創る学力向上支援事業に係る未来を創る授業力向上協議会(小学校外国語)

1 目的

各小中学校及び義務教育学校の教員等を対象に、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり及び評価に関する説明・講義等を行うことにより、小中学校教員の授業力向上に資する。

2 主催 大分県教育委員会

3 期日 令和7年7月1日(火)

4 場所 別府国際コンベンションセンター（ビーコンプラザ） 国際会議室



5 内容

＜小野課長挨拶＞

昨年度、児童の ESG 英検 5 級相当の英語力が 55%に達し、「英語が好き」と回答する割合も増加するなど、一定の英語力向上が見られる。しかし、小学校 5 年生で 65%だった「英語が好き」の割合が、中学校 2 年生では 45%に低下し、また中学校 2 年生の低学力層が 4 割を占めるという課題がある。この現状を踏まえ、小学校での学びを中学校へ円滑につなぐことが重要である。

昨年から APU と連携し、今年度より希望する学校へ APU 学生を派遣する事業を開始しており、児童・生徒が英語の「伝わる喜び」「できる喜び」を感じられるよう、本事業を積極的に活用してもらいたい。

域内の英語を牽引している先生方から、本研修の内容を域内の学校に確実に伝えていただきたい。

行政説明・協議「大分県における外国語科の課題と授業改善」

＜説明者＞義務教育課 学力向上支援班 指導主事 二宮 健吾

1. 大分県の外国語教育の現状と課題

大分県における外国語教育では、小学校児童の英検 5 級相当習得率が約 55%に達しており、英語力が身についてきている。中学校では、令和5年度全国学力・学習状況調査で低学力層の生徒が多く見られ、令和7年度公立高等学校入試においては 10 点から 19 点の層が 30%以上を占めている。中学校での「英語が好き」という肯定的な回答割合は多少増加傾向にはあるが、小学校での「英語が好き」と回答した児童の割合を考えると、どこかで英語の学習につまずいていることが予想される。このことから小中の学びの円滑な指導のつながりが必要である。学習指導要領にも校区内の小学校での指導を知り、中学校での指導に生かす必要があると記載されている。小学校では育成すべき資質・能力をしっかりと身につけさせ、中学校では小学校での学びを理解して指導に生かし、小学校での学びと中学校での学びに間にギャップが生まれないようにしていくことが大切である。

2. 小学校外国語科における「書くこと」の指導について

小学校の外国語科における「書くこと」の目標は、学習指導要領に基づき、「何も見ずに大文字・小文字を活字体で書く」「基本的な語句や文を書き写す」「例文を参考に自分のことや身近な事柄について書く」ことである。指導においては、書かせすぎず、話す・聞く・読む活動の後に書く活動を行うなど、適切な実施が重要である。中学校では、正確性やまとまりのある文章の記述、簡単な語句や文を用いた理由の記述が求められる。中学校では小学校での指導を理解し、いきなり書かせるのではなく、いずれの段階でも、音声で十分に慣れ親しんだ上で書く活動を行うよう、計画的な学習が不可欠である。

3. 「小学校の学び」を中学校に円滑につなぐための指導の在り方について

小中学校の円滑な接続のための協議において、以下のような意見が出された。

- ・小学校では、大文字・小文字の繰り返し指導、文のルール(スペースやピリオドなど)の徹底、中学校での多量な記述に対応できるよう、複数の文を書く練習の導入が重要である。
- ・中学校では、小学校の学習内容を復習する機会を設け、テスト形式や評価方法を小学校と合わせる工夫が必要である。

る。具体的には、書き写す問題や絵、四線を用いたテスト、また日頃の授業でもこれらの活動を取り入れること、小学校で扱った身近な題材を中学校でも活用すること。

まとめとして小学校で単語を書く指導を増やした際に「英語が好き」という感情が低下した事例も踏まえ、学習指導要領に則った丁寧な指導と、音声活動を十分に行った上での書く活動の導入が重要である。

講義「小中のつながりを大切にした指導の在り方について」

<講師>文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 早川 優子 氏

【英語教育実施状況調査より】

学習指導要領には何をどう指導すればよいか書いてあるので、まずは小中それぞれの学習指導要領の内容を適切にかつ丁寧に指導する。授業改善のポイントとして令和9までに中学校3年生3級、高校生準2級取得者6割以上を目標にする。

生徒の英語力に影響を与える諸要素(①生徒の英語による言語活動、2教師の英語使用、③教師の英語力、④ALTの授業外活動)を中学校、高校だけでなく小学校でも取り入れていく。

～授業内～

中学校における ALT 活用例

- ・生徒の発言や作文等に対するコメント・フィードバック
- ・やりとり・発表のモデル提示、パフォーマンステストのサポート

中学校における ICT の活用例

- ・チャットのやりとり
- ・発表ややりとりの録音録画
- ・デジタル教科書の活用

～授業外～

- ・学校行事での生徒との交流等
- ・遠隔地とのやり取り(ALT 等との英会話)
- ・遠隔地の生徒等とのやり取りICTの活用

【動画の視聴】 個別最適な学びと協働的な学び

学習指導要領の内容を理解して、どんな指導が適切かを考える。

<動画における3つのポイント>

- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の明確な設定
- ・指導が自身の話す内容を見通したり、改善したりする場の設定
- ・教師やALT等による適切な見取りと指導

【小中連携に関する取組の好事例】

- ・同じパフォーマンステストを小中で実施して小学生と中学生の到達したところを確認できた。
- ・課題ではないが、読むことに指導の難しさを感じている小学校の先生が多い。
- ・読むことだけでなく、書くことも指導しなければならないので、量や時間を考えて適切な指導を行っていく。
- ・子どもが嫌にならず、無理なく取り組める活動を考える。
- ・子どもたちが自分で学んでいくための学び方を教えることが大切である。

【言語活動について】

- ・言語活動は「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動である。
- ・練習は言語活動ではないが、言語活動を成立させるために重要である。練習で終わらないよう留意する。
- ・練習は言語活動につながるものであり、練習の必然性や何のために練習するのかを考える。